



12

生たちが月刊メディアを持ったことと見えた世界観についてお届けします。

また、新年度の編集学生（中学生、高校生、専門学校生・短大学生・大学生）を募集しています。ご

The Fourth Year

『てらスクール』は、約一万四千ある曹洞宗のお寺や、曹洞宗に係る学校など全国に届く月刊誌メディアです。この連載は、巻頭3ページを、全国から有志が集まった、学年、校種、所属する学校、住む地域も異なる中生たちが執筆しています。今回は、2024年度に活動した編集学

私は記事を書くとき、毎回読者のみなさんのことを思い描いています。書き方や内容に悩んだ時、読者のみなさんのことを想像します。同世代だけでなく小さい子や大人が読んでくれているかも知れない。そう考えると、様々な年代の人に届くように意識することが



○ののは  
・高校1年生

★申込みフォーム  
質問なども  
こちらから↓

興味がある方は、ぜひご連絡をお待ちしております。

私がこのメディアで発信をしていて気づいたことは、どんな方が読んでくださり、どんな反応が生まれているかが見えない、ということ。見えないからこそ、メディアは不正確・不明確にもなり



○るーな  
・高校2年生

できます。高校生目線からの捉え方だけでなく、様々な角度から物事を考えてみる習慣が身についたのは、『てらスクール』というメディアを持ったからこそだと思います。これからも、今これを読んでいる「あなた」へ届くように、一生懸命記事を書いていきます。





うると考えています。これらは基本的に当たり前ですが、実際に発信する中でこれに気づいたことで、私は自分の文章で読んでいる人にどんな感情を持ってほしいのか、物事をどう伝えていくかを考えるようになりました。

次回号ではみなさんに家族について考えてもらいたく、それに關するエピソードをお届けします。お楽しみに！



○Minaty  
・中学3年生

僕はこれまで、伝えたいことがあったけど伝えることが苦手でした。でも執筆を始めて、自分の感じたことを「てらスクール」とい

うメディアを通じて多くの人が読んでくれることを嬉しく思います。また、執筆のための取材や体験を通じて、もの見方や考え方が変わったと感じます。例えば、仏教の教えで五観の偈を学び、食事の時、食材を育てた人たちの作業を想像しながら、食べる様になりました。食事をより味わう様になりました。

次号は、「ダイアログコネクション」というプロジェクトからの学びを執筆します。



○ぶりん  
・高校3年生

「てらスクール」を通じて、表現する文章が読者に与える影響を学びました。単なる説明ではなく、

比喩を用いることで、読者が想像しやすくなると感じています。この経験から、メディアにおいては、文章を分かりやすく、かつ面白く表現することが重要だと考えるようになりました。工夫を凝らした表現が不可欠であり、それによってより多くの人々にメッセージが伝わりと信じています。表現力を高めることで、読者とのつながりを深めることができると思います。



○Kako  
・高校3年生

私は、読者に自分が伝えたいことをどう正確に伝えるかを考えてきました。その結果、読者の心に残る文章が伝えたいことを正確に





表現できるのではないかと感じて

います。心に残る文章とは、必ずしも前向きな内容ではないと考え

ます。文末を疑問文にしたり、読

後、考え込むようなもやもやした

時間ができることも読者の心に残

ったと言えるのではないでしょう

か。人に自分の気持ちを伝えるこ

とは一生あること。いかに丁寧に

伝えられるかを『てらスクール』

で培った力を活かしてこれからも

考えていきます。



○やとこ  
・高校1年生

私は「自分の声は自ら届けなければいけない」ということに気づかされました。高校に入学してか

らの私は、クラスの規模が大きく

なり、意見を共有する機会が減っ

たことにもどこかしさを感じていま

した。しかし、先日のお宿の中で、

自分が得た学びや感情を目の前の

相手に話すことができ、喜びでい

っぱいだったのと同時に、「てら

スクールの一員として、自ら自分

の声を届けなければいけない」と

改めてこの貴重な環境に気付いま

した。これからも毎日の様々な学

びと向き合い、読者のみなさんの

学びの種となるような文章を書



○あおい  
・高校1年生

私からはみなさんに、「自分ひ

とりの小さな声でも発信し続け

ば必ず届くのだ」ということを、

この『てらスクール』というメ

ディアを通して伝えたいと思います。

自分の力、というのはとても小

さく非力なように思えてしまいつ

い自分を出すのが億劫になってし

まう。それが今、高校生の私たち

の本音であり実情です。でも、必

ず誰もが心の中で考えていること

や思っていることはあると思いま

す。私はこの活動を始めてから、

自分の意見を確固として持って発

信できるようになりました。これ

からも自信を持って正しい情報と

沢山の学びとなる文章を書いてい

きたいと思えます。この私の文が何かみなさんのきっかけになれたら嬉しいですね。

